

衆議院環境委員会ニュース

平成 30.11.20 第 197 回国会第 2 号

11 月 20 日（火）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・原田環境大臣（原子力防災担当大臣）、城内環境副大臣、あきもと環境副大臣、勝俣環境大臣政務官、菅家環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

務台俊介君（自民）

- ・我が国が議長を務める来年 6 月の G20 サミットにおける「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」に臨む原田環境大臣の決意を伺いたい。
- ・本年 12 月に開催される COP24 において、パリ協定の実施指針の策定が期待され交渉が進められているが、交渉において各国の意見が分かれている論点及び我が国の立場について、勝俣環境大臣政務官に伺いたい。
- ・使用済太陽光発電パネルの適正処分・リサイクルシステムの構築について、法制度の整備も含めて検討すべきとの勧告が、昨年に総務省からなされているが、現時点での環境省の検討状況について、菅家環境大臣政務官に伺いたい。

横光克彦君（立憲）

- ・我が国で石炭火力発電の新増設が推し進められ、二酸化炭素の排出量が増加していく流れは、さらに厳しい規制がない限り止められないと考えるが、石炭火力発電にどのように対応するつもりなのか、原田環境大臣の考えを伺いたい。
- ・プラスチックごみの排出を削減するための産業界に対する協力の呼びかけの方法と法的規制の必要性について、原田環境大臣の考えを伺いたい。
- ・地元合意や実効性のある避難計画策定の見通しが不透明な中で、日本原子力発電東海第二原子力発電所の再稼働に向けて進んでいくことについて、原田原子力防災担当大臣の見解を伺いたい。

田村貴昭君（共産）

- ・パリ協定の実現のためにも COP24 の前に石炭火力発電所の新増設を認めない決断を下すべきと考えるが、原田環境大臣の見解を伺いたい。
- ・安倍内閣総理大臣が発言した「再生可能エネルギーの

最大限の導入」とは具体的にどのようなものか、経済産業省に伺いたい。

- ・九州電力による太陽光発電の出力抑制は、再生可能エネルギーの普及促進に水を差すものとするが、経済産業省の所見を伺いたい。

古屋範子君（公明）

- ・プラスチック資源循環戦略を策定する意義、特筆すべき内容、今後の日程について、あきもと環境副大臣に伺いたい。また、目標実現のため、ロードマップを同戦略に明記する必要があると考えるが、菅家環境大臣政務官の見解を伺いたい。
- ・「プラスチック・スマート」キャンペーンに関して、政府が率先して国民の意識向上・理解と協力を促す必要があると考えるが、あきもと環境副大臣の見解を伺いたい。
- ・我が国は国際社会と連携して海洋プラスチックごみの回収・抑制のための議論を主導すべきと考えるが、我が国が議長を務める来年 6 月の G20 サミットに向けた原田環境大臣の決意を伺いたい。

小宮山泰子君（国民）

- ・地下水位観測に用いられる観測井の観測データの活用現状について、城内環境副大臣に伺いたい。併せて観測井の設置を支援すべきであるとするが、原田環境大臣の見解を伺いたい。
- ・災害時のペットの同行避難について、環境省の取組を伺いたい。
- ・合併処理浄化槽の海外展開の状況及び今後の目標について、原田環境大臣に伺いたい。